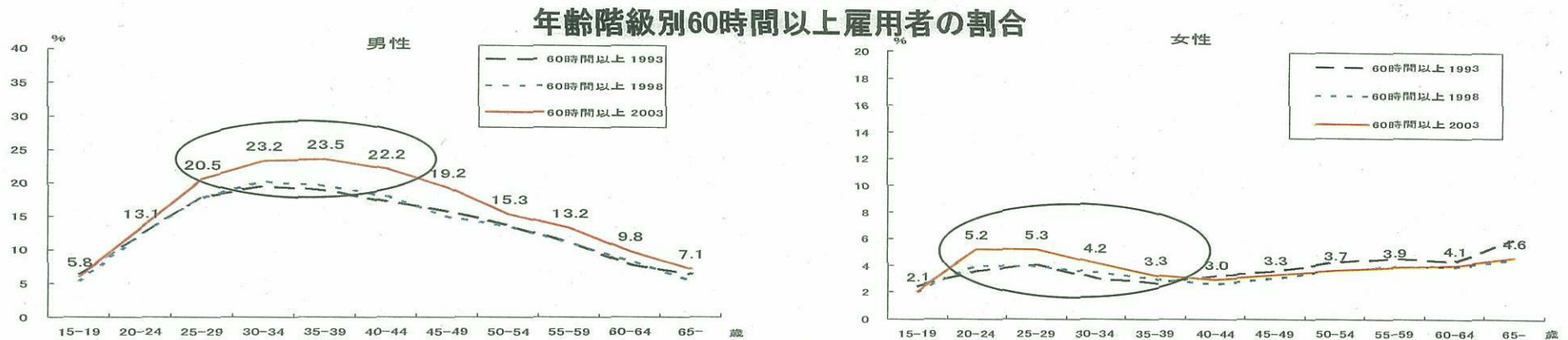


キャリアの発展段階における長時間労働

25歳から44歳の男性雇用者及び39歳以下の女性雇用者で、週60時間以上働く者の割合が上昇している。また、長時間労働は自己啓発も含め生活への影響も大きい。



資料出所:厚生労働省「平成16年版労働経済の分析」

労働時間の長さと生活への影響(週の実労働時間別)

		睡眠時間が必要なだけ取れる	疲れやストレスが無い	家族と団欒の時間が取れる	仕事に関する勉強時間が取れる
週の実労働時間	40時間未満	78.2	37.9	79.3	65.5
	40～45時間未満	76.7	29.4	74.2	60.0
	45～50時間未満	63.3	26.6	64.1	44.5
	50～55時間未満	53.5	11.3	37.3	28.2
	55～60時間未満	34.9	12.0	32.5	34.9
	60～65時間未満	39.6	9.3	22.2	18.5
	65～70時間未満	26.7	2.2	26.7	6.7
	70時間以上	12.5	0.0	9.4	9.4
総計		55.9	20.0	51.6	40.5

資料出所:(財)連合総合生活開発研究所「働き方の多様化と労働時間等の実態に関する調査」(平成14年)